



難病

不安と決断①

異常、4年前からあったが

仙台市の豊沢洋子さん(50)は仮名。1は07年6月中旬の金曜日、久しぶりに会った友人と夕食を楽しんでいた。だが、急に寒気がして、トイレで食べたものを戻してしまった。「風邪かしら」

前年の夏に派遣社員から正社員になり、仕事が複雑になって、量も増えた。朝8時から夜8時まで昼休もどれなりお昼時が続き、ずっと疲れが抜けない気がしていた。その日は帰宅してすぐに寝たが、翌朝、ウロク茶のような真っ黒な血尿が出た。

4年ほど前から、勤務先の健診の尿検査で潜血尿の陽性が続き、気になって、総合病院の泌尿器科に行って腎臓の造影や超音波などの検査を半年ごとに受けていた。

しかし、結果はいつも「問題なし」。最近受けた検査では尿たんぱくも検出され、7月に再検査をすることにしていたが、「今のところは大丈夫」と言われていた。

約1年前にもビツクの尿が出た驚いたが、まあなく治った。今度も水分をたくさんとるようになったら、日曜日は血尿は出なくなつた。「来月、まだ検査に行くからいいか」

日曜日はいつものように出勤した。ところが、上司に「顔色が悪いから、早速して医者に行け」と言われた。

自宅に保険証を取りに帰つたついでに、自分の検査結果も持って、昼休みも診察していた仙台内科総合クリニックに飛び込んだ。血圧を測ると、高めだった。唐沢さんからこれまでの経過を聞いた鎌田和彦院長は「1&A腎症かもしれないよ」と言った。

腎臓内で血液を濾す糸球体は、本来は外敵から体を守る働きをする免疫グロブリン「IGA」というたんぱくが沈着し、糸球体の毛細血管に炎症が起きる病変だった。慢性腎炎の一つで、進行すると腎不全になる。

まず血液検査をして、IGAの値が高いかどうかを調べることにした。「結果が出る3日後にまた来てください」と言われた。家庭用の医学書などで病名を目にしたことがあった。けれど「総合病院で大丈夫と言われているので、「まさか」と思った。

翌日、いつも検査を受けている総合病院に行ったら、「来月、もう一度調べますが、とりあえず心配ありませんよ」と言われた。ほっとした半面、いつかどうなるかわからないと不安になった。

(本多昭彦)



休日によく歩くようになった＝仙台市

「患者を生きる 不安と決断」は5回連載します。

ご意見・体験は、<メール> iryo-k@asahi.comへ。